

工事における事例（その2）

工事を行う際には、今よりちょっとだけ気遣いをプラスするだけでも、通行人から見た工事現場への印象や安心感は大きく変わります。ここでは、そのような「ちょっとした」、しかし「これを改善すればさらにいい現場になる」だろうと思われる事例を紹介します。

品川区防災まちづくり事業部

1. 工事看板	P 2 ~ 6
2. 作業帯等	P 7 ~ 9
3. 養生及び開放	P 10 ~ 11
4. その他工事中のマナー	P 12
5. 施工上の留意点	P 13 ~ 14

※ 事例紹介記事に掲載している写真は、例を示したものです。

◆工事看板



緩衝材の色が看板の背景、または文字色になっていない。



品川区では青、または白の緩衝材を使用するとした。

改善
しよう



人が通る部分にのみ緩衝材を使用している。



常設の看板には緩衝材を全周付けること。

改善
しよう



現場着手、1週間前に「工事予告看板」を設置する。
※設置枚数については、設計書を遵守すること。



着手後は「工事情報看板」に切り替える。

看板種類に
注意

④



情報看板は歩行者、周辺の住民にお知らせする看板。

歩道あり

対象路線の歩道幅員が広い場合、歩行者（通行人、周辺住民）に見えるようにドライバーからは見えないように設置する。



歩道なし

対象路線で歩道がない場合、民地側に看板を設置する。民地条件等により設置出来ない場合は監督員と協議し決定する。

看板向きに注意

⑤



通行止めの予告看板は2週間前から設置する。

改善しよう

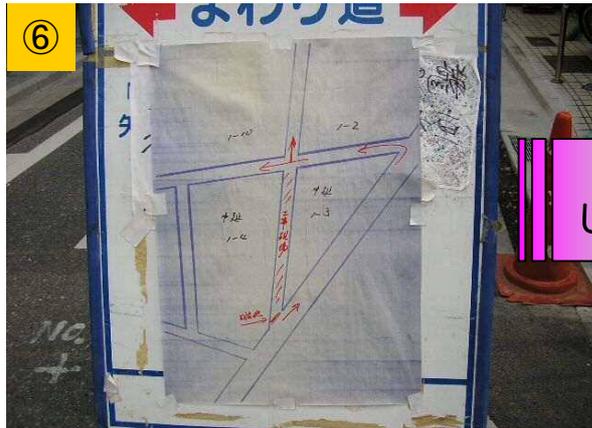
紙による切り貼りはしない。看板内容より工事そのもののイメージダウンとなるので絶対にしない。



イメージアップ

位置図、文字の表記がキレイで見栄えが良い。

⑥



改善しよう

看板がややくたびれている。迂回路図がガムテープ止めとなっていて、見た目があまりよくない。



イメージアップ

迂回路図が大きく表記しており、文字等もキレイで見栄えの良い看板。非常にわかりやすい。緩衝材が付いていれば、なお良い。

⑦



イメージアップキャラクターのクーちゃんを掲示している。



完成予想図が描かれていて、通行人も立ち止まって読んでいます。何が出来るのかわかって非常に良い。

⑧



通行止め予告。迂回路も同時に掲示して親切である。通過車両も減る効果が期待できる。



あらかじめ迂回路が確認できるので、通行する方にも余裕ができて無駄なトラブルが減る。

⑨



休工中状況。工事区間にある看板には休工中が貼られていない。



長期休工时、路線移動する場合は休工中シール、休工期間を見やすく、大きく表示する。

⑩



ピクトグラムを使用している。
 ※ピクトグラムについては、別紙『工事中の歩行者のためのユニバーサルデザインガイドライン』を参照

漢字の読めない方など(外国人等)全ての人に対して確実に注意を促し事故を防止に努めている。

⑪



いろいろな看板が立てかけられていて何を周知したいかが不明。

看板は何を周知するかがひと目でわかるように設置する。

⑫



誰も看板に注意していない。出していないのと一緒に。

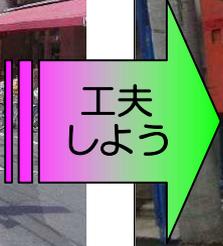
図はあってあるがガードマンもいない。どこの工事で何を迂回させているのか不明。

先の踏切付近で工事している模様。すぐにはわからない。また、緩衝材も設置していない。

⑬



車道側に張り出しており、歩行の際危険である。



幅員が狭く、看板の設置が困難な場合は、バリケード等に看板を設置するなど工夫する。

◆作業帯等



①

カラーコーンは置いてあるが作業帯が明確になっていない。



コーンバーを使用して作業帯を明確にする。



②

作業帯の反対側に材料パレットが置いてあり、歩行者・車両等の通路を狭くしていた。



狭い路線では特に材料等は、作業帯の中に入れて作業する。



③

歩行者通路の確保。見た目がきれいであることがよい規制の第一歩。やむを得ずバイクなどを通す場合は乗り物を降り、押して歩くよう誘導すること。



④

ガードマンは立っているが左折して通行止めになっているのはわからない。交差点部にも規制看板等を設置するなどの対策を考える。



歩行者や住人に対する言葉遣いや態度等は、丁寧に行う。



現場監督が自転車を運び、歩行者の誘導を行っている。

作業中の誘導。お年寄り、子供連れの多い路線では歩行者、自転車等の誘導にも気を配る。



同じような現場状況

交差点。作業帯中間の2人のガードマンの連携が重要。



交差点での車両誘導は難しい。よくミーティングをして現場担当者はガードマンにだけ任せず、自分も気を配る。



ガードマンがトランシーバーを使いながら連携を取っている。誘導がスムーズになるので良い。



車両の作業帯内での駐車は歩行者の通行にも迷惑なので、極力車両は減らして作業する。

⑩



大通りで離れていても作業の1部。カラーコーン等設置しよう。

回送車が大通りで待機。ハザードは付けているがカラーコーンも置いて工事車両であることをPRする必要がある。

⑪



通勤時間に材料搬入をしていた。繁華街はそれなりに時間調整して計画する気配りが必要。特にクレーン作業の下を歩行者が歩く場合は非常に危険。

◆養生・開放



①
粗粒を使用している。端部が飛散して周辺を汚している。見栄えも悪い。

改善
しよう



材料は細粒を使用し、通行者にわかりやすいよう、すり付けは大きく・仮ライン・段差あり看板を設置する。



②
企業者復旧。汚水柵周りが段差のまま舗装されている。自転車、歩行者に危険。

改善
しよう



合材の端部は飛散防止のため、セロシールテープのようなもので処理している。



③
乗り入れ部の前後に点滅灯を設置して、夜間時の車両の出入りを警告している。特に街路灯の無い狭い区道では点滅灯の設置が必要。



④
横断歩道前の開放状況。通行人が多く、転んだりすることが予想できる箇所。段差が出来ないようにすり付け等を行い開放する。

⑤



改善
しよう



グリーンマットで養生しているが、コンパネの段差が隠れてしまって逆に危ない。

段差すり付けを行ってからグリーンマットで養生する。グリーンマットは風で飛ばされないよう、釘やテープなどで止める。

⑥



改善
しよう



資材置場の整理整頓がされていない。ブロックも立てかけられていて危険。

現場に資材を置く場合には、ブロック等は立てかけずに寝かすなどの安全を確保し、カラーコーン、ブルーシート等で資材を囲い、整理整頓する。

⑦



絶対
やめよう!

舗装切断後の清掃が不備。しかも出入り口前なので苦情の要因になる。

⑧



民地に駐車してるが道路にはみ出している。許可等があるとき以外は工事車両は現場に放置してはいけない。

◆その他 工事中のマナー



①

絶対
やめよう!

くわえタバコで作業。火災になったらは大問題。
絶対にやらない。



②

ガードマンのカバンが無許可で民地に置いてある。現場内に、整理整頓して置くこと。



③

灰皿を設ける

設置
しよう

作業中のくわえタバコ、ポイ捨て等は苦情の原因になるため、喫煙は所定の場所です。



喫煙所を明確にし、作業しながらの喫煙はやめること。

※品川区では「品川区歩行喫煙および吸い殻・空き缶等の投げ捨ての防止に関する条例」により、指定区域内の路上等では喫煙を禁止、またそのほかの箇所でも歩行喫煙をしないよう義務付けています。

◆施工上の留意点



① 特に端部、柵、人孔まわりは、路盤転圧時にきちんと締め固めをする。



② キララ舗装を施工しているが、施工後まもなく飛散。人工骨材が周辺に飛び散っている。施工完了後の確認を忘れないようにする。



注意しよう

③ L形、街渠の敷モルタルは、練りモルタルに手で握り固まる程度に水を含ませたものを使用する。



注意しよう

④ L形、街渠の目地モルタルは、トロ状に練ったモルタルをしっかり充填させ、コテで仕上げられる状態になったら、目地仕上げを行う。



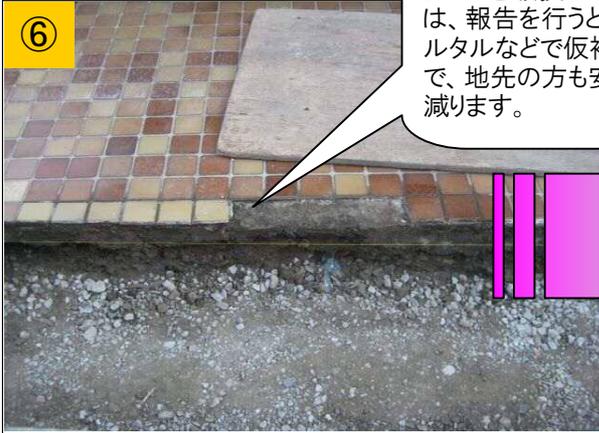
⑤ カラー舗装は骨材を散布してから2~3日空けてトップコートを塗布する。

養生期間を設けよう！！



骨材散布から養生期間を置くことで、余分な骨材を飛ばし、トップコート後の骨材飛散が少なくなり、色ムラが出来にくい。

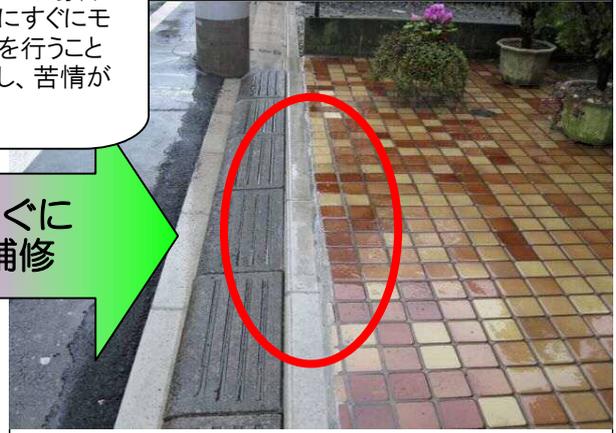
⑥



民地のタイル等を誤って破損してしまった場合は、速やかに地先に報告するとともに、補修内容について十分調整を行うこと。

タイルを破損してしまった場合は、報告を行うとともにすぐにモルタルなどで仮補修を行うことで、地先の方も安心し、苦情が減ります。

すぐに
補修



補修後は地先に確認してもらい、必ず了承を得ること。

⑦



工事が完了した後も、民地のタイル・インター破損に関するトラブルが多くなっている。

拡大



後々トラブルになって困らないよう、事前調査は十分に行うこと。